

公益財団法人 在宅医療助成 勇美記念財団

2016年度（前期）指定公募
「地域包括ケアを目的とした在宅医療推進のための他職種研修会への助成」
完了報告書

在宅医療介護推進のための他職種連携シンポジウム

「介護が必要になったとき」

- 自宅で生活を続けるための、
ひとづくり・連携づくり・意識づくり・訪問医療と訪問介護 —

申請者 : 皆川 竜身
所属期間 : NPO 法人 Hi-MARC (ハイマーク)
提出年月日 : 2017年1月18日

I. 開催概要

1. 開催日時：平成28年12月11日（土）13：30～15：30
2. 開催場所：茨城県日立市保健センター2階ホール
3. 参加者：日立市民80名
4. 後援団体：日立市

日立市社会福祉協議会

一般社団法人 日立薬剤師会

公益社団法人 茨城県看護協会

一般社団法人 茨城県リハビリテーション専門職協会

公益社団法人 茨城県理学療法士会

公益社団法人 茨城県作業療法士会

一般社団法人 茨城県言語聴覚士会

一般社団法人 茨城県介護福祉士会

茨城キリスト教大学

II. プログラム

第1部 基調講演

「地域志向ケアを実践できる看護職の育成」

講師：鈴木昭子（茨城キリスト教大学看護学部准教授）

医療現場のみならず、地域を考慮しながらケアすることが看護職員に求められており、ひいては介護の現場においても地域志向ケアを念頭に置いた対応が必要であり、その育成が重要であると講演いただいた。

第2部 パネルディスカッション

「介護が必要になったとき」

司会者：皆川竜身（NPO法人 Hi-MARC 理事長/たつみ歯科往診クリニック院長）

パネリスト：照沼秀也（訪問診療 / 茨城診療所）
征矢 亘（訪問歯科診療 / 征矢歯科医院）
鈴木勝俊（訪問薬剤 / 東金沢薬局）
清水麻美（訪問看護 / 訪問看護ステーションいつもえがお）
磯野 敦（訪問リハビリ / らいおんハート）
斎藤さゆり（訪問介護 / 茨城県介護福祉士会）
一木秀子（ケアマネージャー / 特別養護老人ホーム金沢弁天園）
古河和人（日立市役所保健福祉部高齢福祉課）
宮本 淳（日立市社会福祉協議会）

前半は、実際に介護が必要になったときに、相談したり介護保険サービスを利用したりするためにはどのような手続きが必要になるのかを行政やケアマネージャーから説明いただいた。それらをさらに深めるために、在宅サービスを担う専門家から具体的な支援内容やそれぞれの職種の役割を詳細かつわかりやすく説明いただき、質疑応答を行うことで一般市民にとって理解しやすい内容となった。

後半は、様々なサービスを利用することで在宅生活が維持できている事例についてケアマネージャーから提示していただき、上手なサービスの利用について解説された。一般市民からは普段疑問に思っていることについての率直な質問を受け、日常生活において介護が必要になったときを想定し、当事者として具体的な方策について認識することができた。



III. チラシ

主催：NPO法人 Hi-MARC
助成：公益財団法人在宅医療助成 勇美記念財団

在宅医療介護推進のための多職種連携シンポジウム

「介護が必要になったとき」

— 自宅で生活を続けるための、ひとづくり・連携づくり・意識づくり・訪問医療と訪問介護 —



今後、ますます疾病や要介護状態にある高齢者数が大きく増加することは避けられない状況となっている今、改めて高齢者一人ひとりに多事業所・多職種が関わっている事実を再認識し、連携をいかにして構築し、持続していくかを考察することが必要になっていると感じています。

そこで、それぞれの職種の立場で感じている連携の必要性・課題の共有を目指したシンポジウムを実施することで、職種を超えて地域という枠で在宅医療介護を促し、連携を通して在宅療養に必要なサービスを適切なタイミングで提供していくことの一助になればと考えています。



開催日時 **2016年12月11日(日) 13:30 ~ 15:30**
(13時開場)

開催場所 **日立市保健センター** 定員 **100名**
どなたでもご参加いただけます **無料**

【第1部：基調講演】

「地域志向ケアを実践できる看護職の育成」 鈴木 昭子 茨城キリスト教大学 看護学部 准教授

【第2部：パネルディスカッション】

ファシリテーター 皆川 竜身 NPO法人 Hi-MARC 理事長 / たつみ歯科往診クリニック院長

パネリスト

照沼 秀也 訪問診療 / いばらき診療所

征矢 亘 訪問歯科診療 / 征矢歯科医院

鈴木 勝俊 訪問薬剤 / 東金沢薬局

清水 麻美 訪問看護 / 訪問看護ステーション いづもえがお

磯野 敦 訪問リハビリ / らいおんハート

斎藤 さゆり 訪問介護 / 茨城県介護福祉士会

一木 秀子 ケアマネジャー / 特別養護老人ホーム金沢井天園

古河 和人 日立市役所 保健福祉部 高齢福祉課

宮本 淳 日立市社会福祉協議会

主催

ハイマーク
NPO法人 Hi-MARC



（お問合せ先）
〒317-0065
茨城県日立市助川町 4-7-11
TEL : 0294-33-8841
FAX : 0294-21-2967
E-mail : himarc13@gmail.com

後援

- ・日立市
- ・日立市社会福祉協議会
- ・日立市薬剤師会
- ・茨城県リハビリテーション専門職協会
- ・茨城県言語聴覚士会
- ・茨城県理学療法士会
- ・茨城県作業療法士会
- ・茨城県介護福祉士会
- ・茨城キリスト教大学

IV. 登壇者配布資料

資料は配布せずに、基調講演、シンポジウムともに前方のスクリーンにプレゼンテーションを投影することにより説明を行った。資料提供を希望される参加者はいなかったものの、レジュメの配布等により、さらに理解が深まったと思われた。

V. 研修会終了後の効果

日立市民に対して、介護が必要になった時の相談窓口である、市役所の高齢福祉課や地域包括支援センターを周知することができ、様々な専門家が共同して地域の在宅生活を支えていることを認識していただくことができた。実際の介護サービスを学ぶ機会を提供できたことで、地域包括ケアシステム構築に向けて地域住民の理解を深めることにつながったと考える。

市民に対して具体的に情報提供を行いながら、専門家が一緒に地域包括ケアシステムを構築するための一助として活動することの重要性が示唆された。

シンポジウム後のアンケートでは、ほぼ全員が参加してよかったと回答され、自由意見として以下のような助言があった。

- 個々の専門的な話も聞いてみたい
- 日頃知りたいことが聞けてよかった
- この企画はとても素晴らしくよかった
- 明るい気分になれた
- 事例とパネル構成がよい
- 講演会はよく参加しているが、実際になるとなぜか役に立たないことが多い
- プログラム構成が問題
- 宣伝方法を改善したほうがよい
- 今後の活動にも大いに期待しています

VI. 今後の継続性と感想

NPO 法人 HI-MARC（ハイマーク）は設立1年目の団体であり、会員数は少ないものの、設立理念である日立市における医療と介護の連携促進を主軸に、徐々に事業を行っております。今回のシンポジウムのアンケート結果からわかるように、「介護が必要になったとき」の具体的な方策についてまだまだ周知されているとは言い難く、市民に対して必要な情報の提供が急務であると思われま。

今後も、「介護が必要になったとき」にどうするのかを、シンポジウムや講演会を通して一般市民と専門家が一緒になって考え行動することで、地域包括ケアシステム構築の一助となり、地域の医療と介護の連携が推進され、安心して在宅で生活出来る地域を目指していきたいと考えます。

本シンポジウムは、公益財団法人 在宅医療助成 勇美記念財団の助成により行いました。
今回、勇美記念財団の助成により、シンポジウムを開催できたことを深く感謝申し上げます。